

## 第1回生田緑地マネジメント会議準備会 議事録

開催日時 平成23年10月20日(木) 15:00~17:00

開催場所 多摩区役所11階会議室

出席者 (別紙)

- 議題
- 1 開会
  - 2 生田緑地マネジメント会議準備会設置会則について
  - 3 各グループ自己紹介
  - 4 資料説明
  - 5 休憩・席の移動
  - 6 質問・意見・情報提供ワークショップ
  - 7 まとめ
  - 8 閉会

配付資料 次第  
生田緑地マネジメント会議準備会 名簿  
資料1 生田緑地マネジメント会議準備会会則  
資料2 生田緑地マネジメント会議設立に向けて  
資料3 生田緑地マネジメント会議会員団体紹介  
第2回生田緑地マネジメント会議準備会 現地視察に向けたアンケート

### 1. 開会

○開会宣言(事務局荻原)

○開会挨拶(事務局鈴木室長)

○事務局職員紹介(事務局荻原)

○配付資料確認(事務局荻原)

### 2. 生田緑地マネジメント会議準備会会則の説明(事務局荻原)

○コーディネーター紹介(事務局荻原)

(小川コーディネーター) 皆さんこんにちは。私は2005年愛知県で行われた日本国際博覧会、愛・地球博の市民参加のプロデューサーを担当した。万博は150年の歴史があるが、当該万博は

歴史上初めて市民参加の事業を行った万博である。3年間かけて市民から235の様々な市民プロジェクトが生まれ、万博で展開した。それが今でも愛知県を中心に展開をしている。横浜でも2009年に万博型の市民参加（市民創発型市民参加プログラム）をやり、180のプロジェクトが生まれ、今でも市内各地で展開している。

プロデュースをしていく中で気づいたことは、市民プロジェクトのテーマはそれぞれ違うが、たった一つの同じメッセージを持っていた。それは、環境破壊は関係破壊だというメッセージである。愛知万博は環境問題を中心に取上げたが、環境問題は、自然と人との関係が破壊されたところに起因している。そしてこのことは環境問題にとどまらず我々が抱えている21世紀の課題の全ての本質的な問題である。環境の問題、子育ての問題、福祉の問題、高齢化の問題に至るまで、お互いの繋がりが切れてしまったところに問題が発生している。人と人、人と自然、人と地域の関係が破壊されたことから生まれてくる。そうした中、もう一度関係性を回復し、繋がりを回復しようと、市民は235のプロジェクトを生み出した。関係破壊から関係回復、そして関係創造が3.11以後の社会の中で重要になってきている。その意味で生田緑地は繋がりを創り出していくことに非常に大事な舞台ではないかと思っている。この生田緑地のワークショップ、マネジメント会議を通して、繋がりの回復がなされていくことが今後の日本の再生にも大きな意味を持つのではないかと。是非そういう意味で皆様と力を振り絞ってやっていきたい。

（小川コーディネーター）お互いかなりご存じの方々もいるようだが、本日は41団体、38名の方々が来ているので、初対面の方もいると思う。もう少し和やかな雰囲気を始めたいので、自己紹介の時間をもちたいと思う。今日は、普通の自己紹介ではない方法をとりたいと思う。まずA4紙に呼んで欲しい名前、生田緑地の好きな場所や物、あるいは人や生き物など、今私にできること・したいこと、今日の気分、以上の4つのことを書いていただきたい。そしてテーブルごとに紹介しあっていただきたい。

○筆記時間

（小川コーディネーター）それでは各テーブルで自己紹介をお願いしたい。

### 3. 各グループ自己紹介

○各テーブルでの自己紹介

（小川コーディネーター）この後テーブルをチェンジしたいと思うので、是非初めての方と出会う場になってもらいたいと思います。

愛知万博をやった後、愛知万博の跡地は愛知地球博記念公園“モリコロパーク”となり、そこで初めて公園マネジメント会議、マルチステークホルダーにより、多様な主体によって公園の運営を考え、そして実際に運営していくことが始まった。おそらく日本で最初ではないかと思う。川崎市ではそれを導入した。首都圏では初めてだと思う。本日は、多様な人達、市民を中心に、この大切な緑を大事に保全し、みんなのために使っていこうという試みの準備会である。これからマネジメント会議についての色々な報告が市からあるが、その報告に対して4色のポストイットに自身で思ったことや質問・疑問、改善のための意見、情報提供について書いて頂きたい。

#### 4. 資料説明

○生田緑地ビジョンについて説明（事務局荻原）

○資料 2「生田緑地マネジメント会議設立に向けて」の説明（事務局荻原）

（小川コーディネーター） それではこの後、質問や疑問、情報提供、意見の時間を持ちたいと思う。その前に、まずは休憩の時間を 5 分位持ちたい。

#### 5. 休憩・席の移動

（小川コーディネーター） 事務局から説明のあった「生田ビジョンについて」、そしてその中にある「生田緑地のマネジメント会議の設立に向け」より質問、疑問、意見、情報提供などがあれば、ポストイットに書いて頂きたい。せっかくテーブル同士でもあるので、話し合ったりしても良いと思う。

席替えを忘れていましたので、出来るだけ初めての方と一緒にさせていただきたいので、好きな場所へ動いて頂きたい。

（会員） ルールを決めないと席替えは無理である。

（小川コーディネーター） それでは、タイムラインをやりたい。誕生日順に並び、順番に番号を言ってほしい。そして今言われた番号のテーブルに移動し、そこでもう一度、先ほどのペーパーを使い自己紹介をして頂きたい。

○各テーブルでの自己紹介

（小川コーディネーター） ビジョンやマネジメント会議の説明に対する質問、意見、情報提供などを 10 分位で書いて頂きたい。

○各自意見等の記入

#### 6. 質問・意見・情報提供ワークショップ

（小川コーディネーター） かなり多様な質問と意見と情報が出てきた。まず質問として、“ビジョンの期間の問題があるが、そのへんについて説明願いたい。

（事務局荻原） ビジョン冊子 4 ページのビジョンの計画期間のところをご覧いただきたい。生田緑地ビジョンは平成 23 年度から概ね 10 年間を計画期間としており、社会状況などの変化に柔軟に対応することができるよう、総合計画や実行計画の改定時期に併せて、必要に応じ修正等を行っていく。

(小川コーディネーター) 次の意見、生田緑地に関する全てにしない理由は何かということだが、これは運営に中心を絞っているということで良いか。

(会員) 生田緑地の自然に関わる部分は、管理、整備、運営全てが関わってきている。管理や整備に関わる部分は外すと自然を保全するということが全部カバーできなくなってしまう。あくまで運営だけということであれば、現状の管理運営協議会がやろうとしていた部分そのまま変わらないということか。

(事務局萩原) それについては、資料 2 生田緑地マネジメント会議設立に向けて 8 ページの図 4 では、マネジメント会議の関わる範囲のイメージを示しており、管理、整備、運営の領域について、マネジメント会議において情報共有を図り、必要に応じて協議や調整を行っていくという形を示している。今後、ルール作りの中で具体化していきたいと考えている。

(小川コーディネーター) 確定ではないということか。

(事務局萩原) マネジメント会議がかかわる範囲については、今後のルール作りの中で決めていく予定である。

(小川コーディネーター) 管理、整備、運営の 3 つの円があり、赤い点のところが管理と他にも関わっている。はみ出した部分は、これから始まるルール作りの中で規定していくということだと思う。そこは非常に大事なところだと思うので、両方にかかるところは今後十分に協議していくとの意見として伺って良いか。多くの方もそういう点を言っていたと思う。指定管理について、意見、質問の両方があるので、この説明をしたいと思う。

(事務局萩原) 指定管理の期間は平成 25 年度から 5 年間で第 1 期として予定している。募集については、来年 4 月を予定しており、現在、募集要項や仕様書の作成をしている。

(小川コーディネーター) 意見の方で、指定管理者の選定後の準備会とのかかわりはどうするのかというものがある。そのへんの説明をお願いします。

(事務局萩原) 指定管理者については、マネジメント会議の事務局を担ってもらおうと思っている。

(小川コーディネーター) もう 1 つ指定管理に関することだが、指定管理が担う業務はどのようなことが想定されるのか。

(事務局萩原) 生田緑地ビジョン冊子の 37 ページに現在の管理運営体制、指定管理導入後のイメージ図がある。25 年度以降、生田緑地については、緑地の維持管理業務、3 つの博物館の施設の運営や管理業務、緑地全体の広報・集客業務を合わせて指定管理者制度を導入し横断的に管理を

していく予定である。

(小川コーディネーター) マネジメント会議の運営についてたくさん質問が出ている。そのへんの説明をお願いしたい。

(事務局荻原) マネジメント会議の運営についてたくさん質問を頂いたが、今後の準備会の中で決定をしていく。会員の扱いを団体のみにするのか、個人のものにするのか。マネジメント会議の構成として、全体会を設けて、分科会まで設けるかなど、今後運営ルールづくりの中で決定をしていく予定である。評価についても質問があったが、愛知県では、マネジメント会議の中で評価委員会を設けて評価を行っている。そういった例も参考にしながら、ルールづくりの中でマネジメント会議の運営について今後検討したいと思っている。

(小川コーディネーター) 今後の議論の中で色々な運営に関する課題が出るからそれをルールとして検討していくということで良いか。それから、コーディネーターは一人で大丈夫かという意見があるが、必要ならば増えたりすると思う。それから、マネジメント会議には多少の予算、事業費を想定しているかという質問があるので、説明願う。

(事務局荻原) これについても今後検討していきたいと思っている。愛知県の例だとマネジメント会議の全体会については予算がついているが、分科会については予算はついていない。それについては、今後運営のルールづくりの中で検討したいと思っている。

(小川コーディネーター) こちらの意見の中にも分科会を作ったらどうかというものがある。愛知県の場合、マネジメント会議の中に出てきた大きな課題について、それを担っていかうという人達が自発的に生まれ、それが分科会になるというプロセス型のデザインになっている。緑地保全の部分について皆さん関心が高いと思うので、そのへんの説明をお願いします。

(事務局荻原) 緑地保全についての質問がいくつかあったが、これについては緑地の保全と緑地の利用の調整を図りながら進めて行きたいと思っている。

## 7. まとめ

(小川コーディネーター) このマネジメント会議の大きなテーマは、緑地の利用効用と存在効用との関係ということだと思うので、是非議論していただきたい。情報提供については、非常に良い情報もあるで、是非これを管理して今後議論とかに加えていきたいと思う。また、意見の方で施設の問題やサービスの問題、広報的な情報をどう出していくかという問題。これらはルールの中のテーマになってくると思うので、今後の議論の中に取り上げていきたい。

○事務連絡 (事務局荻原)

## 8. 閉会 (事務局荻原)